横浜市立 鴨志田中学校　令和 4 － 6 年度版　中期学校経営方針　（ 令和 5 年度修正 ）

学校教育目標	「感動を分かち合おう　目標を高く掲げよう　真理を追究しよう」 〇自らの生き方を創り出す子どもを育てます。【知】 〇個性豊かに生きる子どもを育てます。【徳】 〇たくましく生きる子どもを育てます。【体】 〇横浜に生きる子どもを育てます。【公・開】

学校概要					
創立 38 周年	学校長 大山 憲	副校長 髙橋 陽子	3 学期制	一般学級: 9	個別支援学級: 2
児童生徒数: 269 人	主な関係校: 鴨志田第一小学校・鴨志田緑小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力
＜人と学ぶ・人に学ぶ・自ら学ぶ力＞ ・「あったかさ」に表される豊かな気持ち、地域を思いやる気持ちをもつ子 ・互いを認め合い、伝え合い、学び合う子 ・主体的に学習に取り組む子 ・運動に楽しく取り組み、健やかな体をはぐくもうとする子 ・リーダーシップを発揮し、貢献する子

鴨志田中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
鴨志田中 鴨志田第一小 鴨志田緑小	「伝え合い、学び合う力を育み、9年間の学習に主体的に取り組むことができる子ども」「互いを認め合う豊かな心をもった子ども」「運動に楽しく取り組み、健やかな体をはぐくもうとする子ども」「地域に貢献できる子ども」 ・ブロック内小中合同授業研究テーマに基づく授業づくり（授業見学と意見交換・年2回） ・ブロック内各部会（児童生徒指導・特別支援教育・児童生徒会・学校保健委員会）における情報交換・共有の充実と実践 ・ブロック3校での地域連携の深化 ＊感染症の情勢により、予定変更あり

中期取組目標	
	・「チーム鴨志田」として、全教職員が生徒と保護者にとって安全・安心で、活力と魅力のある学校づくりを目指します。 ・特別支援教育に基づく、教職員の「生徒理解力」の向上を図り、授業や生徒会活動を充実させて生徒の自己有用感を醸成します。 ・「学校運営協議会」を中核として、地域との交流促進と地域人材の積極的活用に取り組み、より一層の地域密着（連携と安定化）を目指します。 ・ブロック内小学校と地域密着を共同歩調として、連携・協働をより一層進めます。 ・教職員の人材育成を通して、組織対応力を向上させ、豊かで魅力的な教育活動を組織的に展開します。 ・「情報教育実践推進校」としての経験を活用して、国の「GIGAスクール構想」に基づき、ICT機器の「ChromeBook」「ロイロ・ノート」「Google for education」等を授業や生徒活動において、積極的活用を継続します。 ・感染症に留意するとともに、生徒が主体的に「できる・やれる・可能なこと」の実践を継続する。

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	感染症対策もしながら、①小学校との学習接続を意識し、「9年間で育てる子ども像」を意識した授業づくり、とくにロイロノート連携を図る。②少人数・TT授業における効果的な学び方を工夫の継続と基礎学力定着化と授業改善、学力向上に努める。③情報管理係（ICT検討員会）を中核に横断的取組と全教科がICT機器の積極的利活用を継続し、より一層の充実化を図る。
担当	教育課程委・学習指導部・ICT検討委	
徳	豊かな心	①教育相談の時間確保といじめ予防の記名アンケート等の結果を教職員間で共有し、個に寄り添った指導・支援を継続する。②「弁護士によるいじめ予防授業」の継続から、「考え、議論する」授業の展開と多角的・多面的な見方の定着化を図る。③生徒が安心して豊かに生活できる「あったかい学校」づくりと生徒会中心の主体的な取り組みを図り、生徒による「安全・安心な学校」づくりに取り組む。
担当	学習指導部人権・特活指導部生徒会	
体	健やかな体	①新体力テストの結果から、体力向上に向けて生徒一人ひとりの具体的な目標に繋げ、実践する。②一校一実践運動である「縄跳び」に授業で継続して取り組み、一層の体力向上を図る。③学校保健委員会において生徒主体の取組を継続し、小中ブロック内で連携する。④「部活動地域移行」で市教委所管課、また民間スポーツクラブと連携して、スポーツの楽しさを味わい、健康な生活を実践する資質・能力を育成する。
担当	生活指導部保健・保健体育科	
公開	学校運営協議会	新型コロナ禍からの脱却と地域密着を念頭に、①中里北部連合地域と連携し、行事復活での生徒と地域との繋がり②オンラインと集合の“ハイブリッド”開催を実施し、学校家庭地域連携の中核として、協力体制を継続③ブロック三校での連携強化を図り、合同での開催を復活④学校便り「KAMONEWS」と学校ホームページ、メールを活用し、積極的に保護者・地域に広報する。
担当	管理部教務係・学年連絡会	
いじめ予防		①「子どもの社会的スキル横浜プログラム（YP-アセスメント等）」をアンケートを年複数回活用し、生徒理解に努め、いじめを許さない集団形成と受容的環境づくりを図る。②チームによる支援を多角的・多面的に行い、学運協との連携を一層推進し、委員である弁護士をスクールロイヤー的存在としての対応を継続する。③「弁護士による道徳一斉授業」をオンライン実施を継続し、3年間でのいじめ予防の理解を深める。④いじめ予防を生徒会主体で行い、「横浜こども会議」等での取組成果を学校全体に浸透させる。
担当	生活指導部・いじめ防止委	
人材育成・組織運営(働き方)		①メンターチームではリーダーを中核として、主体的且つ自主的に取り組み、教師力向上を目指す。また若手とベテランとの融合を図り、ICT活用等で教職員組織活性化を継続する。②「部活動地域移行」等で、教職員の負担軽減と業務改善を図る。学校予算の適切な執行に基づき、グループウェアや採点ソフトを含むデジタルシステムの積極的活用の継続、ストレス軽減化と教職員のリフレッシュ・プライベート充実で、生徒への指導・支援に還元できる環境をつくる。③教育公務員としての自覚に基づき、継続して不祥事防止に努める。
担当	メンターチーム・校長	
特別支援教育		①複数の特別支援教育コーディネーターを中心に、より充実した校内研修とスクリーニングや「学校生活で困っていることに関するアンケート」、「子どもの社会的スキル横浜プログラム（YP-アセスメント等）」等を年複数回実施し、その活用を図るとともに全教職員が個に応じたスキルアップを図る。②特別支援教育委員会を毎週開催し、SC・SSWと連携して配慮を要する生徒情報の共有と対応を継続し、寄り添いとICT機器活用を含めた合理的配慮等組織的対応を深化させる。③市教委と連携した、取出し教室である「ホットルーム」体制構築化を図る。
担当	特別支援教育委員会	
キャリア教育		①「職業講話・職場体験・模擬面接練習・弁護士による道徳一斉授業等」が、地域やNPO法人他の外部機関連携によってオンライン導入による効果的な充実に努め、改善を図る。また、新型コロナ禍からの脱却も図る。②地域との繋がりを意識して、人材活用を生徒の将来を見通した教育活動として取り組む。
担当	教育課程委・キャリア担当	
小中一貫		新型コロナ禍からの対応を踏まえ、①ブロック内小中合同授業研では、小学校との学習の接続を意識し、テーマに基づく授業づくりを進める（年2回のうち、1回は本校実施）。②9年間で目指す子ども像と資質・能力を共有し、ブロック内各部会（児童生徒指導・特別支援教育、防災安全、学校保健委員会、メンター研修）を精選し、メンター研修もテーマ設定から合同で行う。③一昨年度「いじめ防止市民フォーラム」発表での取組継続として、「横浜こども会議」をはじめ、いじめ予防の小中連携を図る。
担当	教育課程委・メンター	
地域連携		新型コロナ禍で培われた良さを取り入れ、①地域密着をモットーに、より安定して円滑な連携を図る。地域との繋がりを意識した参画と生徒が将来、地域を支えようとする意識の育成とその取組を実践する。②教育活動等の学校情報について、ホームページや学校便りである「KAMONEWS」、メール配信や「タウンニュース」等のメディアを利用し、発信する。③負担軽減・働き方改革に繋がる地域・学校行事の精選を模索する。
担当	学運協・生活指導部・防災	